



令和5年1月4日  
目黒区立駒場保育園園長

明けましておめでとうございます。昨年に引き続きご家族の健康管理に気を配られたお正月を過ごされたことと思います。今年も子どもたちが豊かで健やかに成長できることを願っています。

12月に5歳児クラスの懇談会を行いました。丁度12月に北部地域の公立園の年長担任が駒場小学校で授業見学と1、2年教諭の話を伺う機会があり、児童たちに伝えていることとして、友達を大切にすること、挑戦する気持ちや楽しむ気持ちを持てるようにすること、また、生活リズムを整えることなどがあり、駒場保育園の園目標とも通じ、保育園で大切にしていることを継続していくことが、滑らかな就学へとつながっていくことを懇談会でも共有しました。

思いやりのある子どもに育つためには、まず自分の思いを表出でき、それを受け止めてもらえることが大切です。ありのままの自分を好きになってくれるということは、自分が自分を好きになるということでもあります。そして、してもらって心地よいと感じたことを相手にもするようになるのです。乳幼児期に大切にしていること、大人の役割を改めて感じました。

今年もあと3か月で進級、卒園の時期を迎えます。ひとり一人の育ちを確認しながら、今日もたくさん遊んで楽しかったと思える活動や体験を行っていきます。お子さんのことや園運営等に関してご質問等ありましたらお気軽にお尋ねください。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



### 今月の予定

新年顔合わせ会  
3、4、5歳児クラス  
4歳児クラス懇談会  
乳児お楽しみ会  
3歳児クラス懇談会  
Jアラート対応訓練  
身体計測

### つぶやき

1歳児クラス 絵本を見ていて  
子「これはなに」  
保「オフロードダンプだよ」  
子「おふろ？ おふろはどこ」

4歳児クラス 寒い日の朝に  
子「せんせい、きょうけむりがでてるよ」  
保「え、煙？」  
子「は～（と息を吐いて）、ほらね！」



### 2歳児クラス 健康教育 「手洗い」



“あらいくん”という絵本を看護師から読んでもらい、手を洗わないとバイキンが付いたままになってしまうと知りました。

手を洗う時に歌っている手洗いの歌に合わせて看護師と一緒に手を洗うと「きれいになった？」「バイキンいない？」としっかり洗えているか聞いてくる姿がありました。「大丈夫、きれいになったよ」と話すと、嬉しそうに自分の手を見ていました。寒さと共に簡単に手洗いを終えてしまいがちになりますが、歌に合わせて楽しく手洗いをしていきたいと思ひます。

## <今月は3、4、5歳児クラスの戸外遊びの様子を紹介します >

### さくら組 「葉っぱの色や形、大きさの違い」

駒場野公園に行くときたくさんの落ち葉があります。子どもたちは拾い集めて空中に投げたり、踏んで感触を楽しんだりしていましたが、「木にも同じ葉っぱがある」と気づくと「本当だ」「同じだ」と下からもみじの葉を見上げていました。保育士が「同じ葉っぱなのに落ちてると木に残ってるのがあるのが不思議だね」と言うと、「見て、色も違うよ」「こっちは赤なのに、向こうは黄色」と色の違いにも気づきました。すると「見て、これは同じ形なのに大きさが違うよ」と大きさの違いにも気づき「もっと面白い葉っぱがあるかもしれないから探検に行こう」と探索を始めました。下を見たり回りをキョロキョロ見ながら歩き、「こんな面白い葉っぱがあった」と左右で色の違う葉を見つたり、「これはだんだん色が変わってる」とグラデーションのように見える葉を見つけて見せ合っていました。どんな葉っぱがあるかな、とワクワクしながら探索し、色や形、大きさの違いに興味関心を広げている子どもたちです。



### すみれ組 「砂山対決」

園庭に出ると保育士に「どっちが大きな砂山を作るか勝負しよう」と誘ってきます。「大人だから大きな山を作れるよ」と応じると「負けないよ」と嬉しそうです。次々と加わる子どもが増え、子どもチームと保育士の砂山対決になりました。隣同士で砂山を作り、子どもたちはそれぞれがスコップを手にして砂をかけています。「先生は一人だから負けるよ」と言うので、「大丈夫、砂を固めて大きいのを作れるから」と返すと、手を止めて自分たちの山と見比べています。そして「確かに大きい」と保育士の砂山を見て「僕は砂を固める」と言うと、他の子は「砂をかけるよ」「仕上げの白砂を集めてくる」とそれぞれが自分の行うことを声に出して動き始めました。遊びの中で自然と役割を決めて協力し合った子どもチームの砂山は、その後大きく出来上がり、見事勝利でした。「勝ったからおんぶして～」とのリクエストに応えおんぶすると、ちょっぴり恥ずかしいけど嬉しそうでした。



### ひまわり組 「公園での鬼ごっこ」

友達と一緒に体を動かすことが大好きな子どもたちは、散歩先に着くとすぐに誘い合い、鬼ごっこが始まります。ある日のこと、「バナナ鬼（氷鬼の変形で捕まるとバナナになる）する人この指とまれ」と声が上がると、クラスみんなが集まりじゃんけんをして鬼決めが始まりました。勢いよく走ってタッチをしたり、タッチされないようにさっと避けたり、素早い動きに保育士もすぐにタッチされてしまいます。しばらくすると「一人の子がずっと鬼をされていてつまらない…」との声がありました。それを聞いた子が「みんな集まって」と声をかけると「どうする」と相談が始まりました。一人の鬼では全員を捕まえきれずに面白くないことを共有し、どうしたらもっと面白くなるかを考えていることがわかりました。話し合いの結果、鬼を3人にして再開すると今度は3人の鬼から捕まらないようにより集中して逃げたり、鬼は追いかける人と、捕まってバナナになっている子をガードしたりと自然に役割ができ、スリル感が増えて広い場所で息を切らせながらも楽しむ姿が見られました。鬼ごっこを通して心も体も育っていることが感じられました。

